

石狩湾新港 港湾計画 一部変更

平成25年2月27日
交通政策審議会
第51回港湾分科会
資料 3

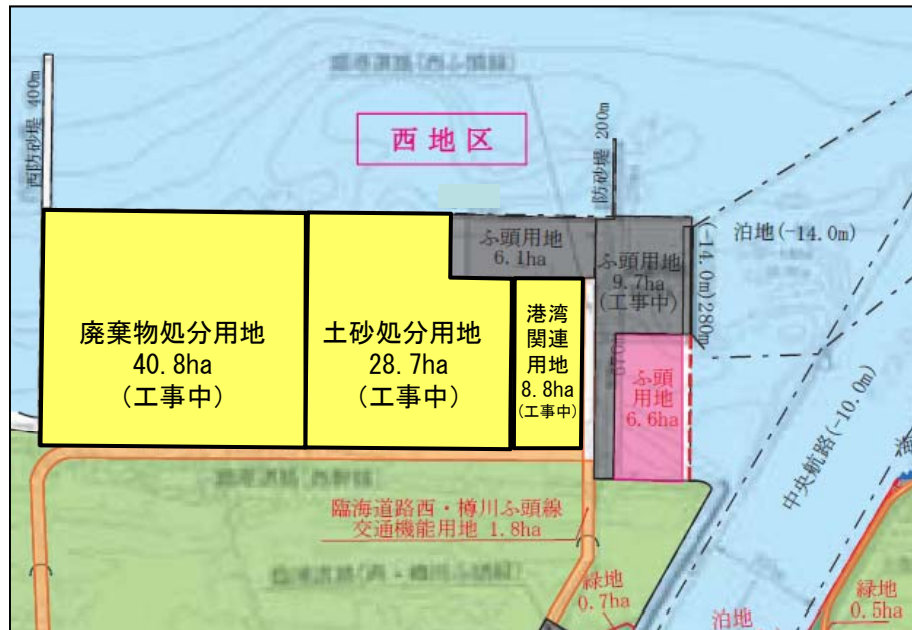


石狩湾新港 計画変更内容

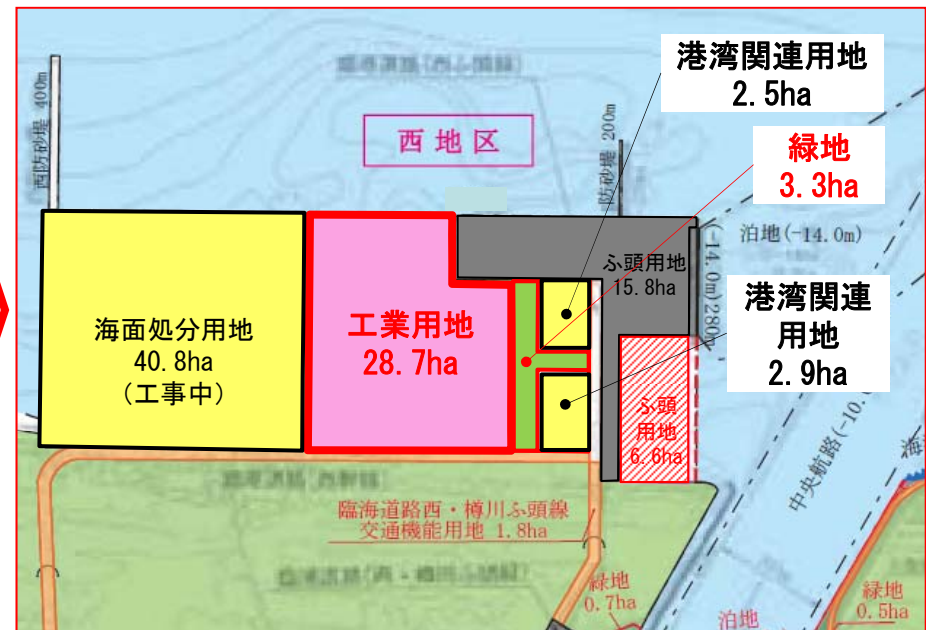
■土地利用計画の変更(西地区)

- ・北海道電力のLNG火力発電所建設計画を踏まえ、西地区「土砂処分用地」(28.7ha)の土地利用区分を「工業用地」へ変更する。
- ・安全かつ快適な就労環境を確保するため、LNG火力発電所と既存の港湾関連用地の間に緩衝緑地を設け、西地区「港湾関連用地」の一部(3.3ha)について、土地利用区分を「緑地」へ変更する。

【既定計画】



【今回計画】



我が国のLNG火力発電所の立地状況

- ① 北海道地区にLNG火力発電所は無い。
- ② LNG火力発電所は都市近郊の臨海部に立地している。
- ③ 天然ガスについては、化石燃料の中でも最もクリーンで、かつ世界に広く分散して賦存しており、天然ガスへのシフトは一層重要な課題となるものと考えられる。(エネルギー白書2012)



出典：(社)日本港湾協会「数字でみる港湾2012」(平成24年3月末時点)
に、国土交通省港湾局調べにより時点修正

LNG（液化天然ガス）のメリット

① 長期・安定的に確保できるエネルギー

天然ガスは中東以外の地域にも広く分散して埋蔵。天然ガスの可採年数は原油（46年）に比べ59年と長い。（図－1参照）
中東からの輸入は3割程度で、中東依存度が低い。（図－2参照）

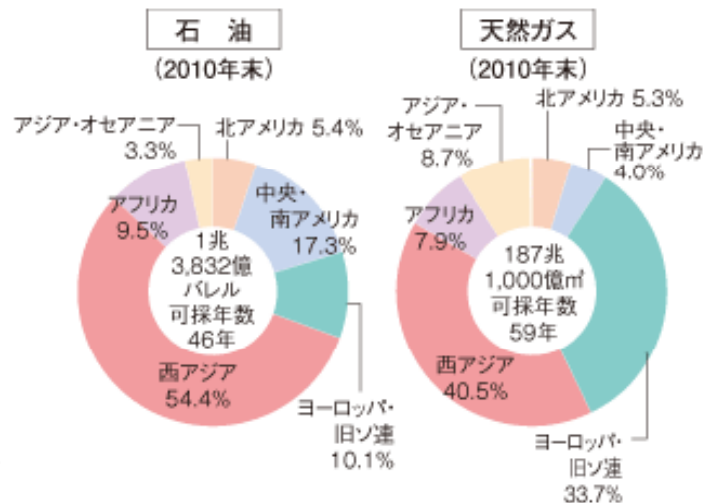
② クリーンなエネルギー

他の化石燃料に比べ、天然ガスは相対的に環境負荷が小さい。（図－3参照）

③ 優れた発電効率

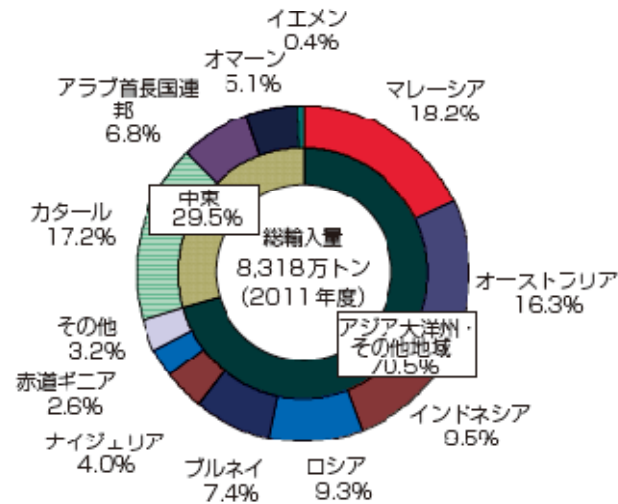
天然ガス（LNG）火力発電は50%台後半の高い発電効率。（石炭火力は40%程度）

図－1
＜可採埋蔵量の地域別割合＞



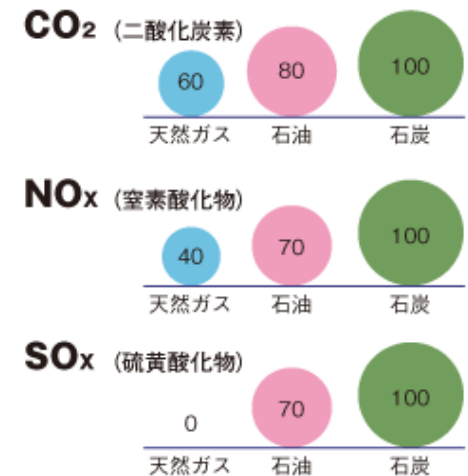
出典: BP Statistical Review of World Energy June 2011 (東京ガスHPより)

図－2
＜天然ガスの輸入先 (2011年度)＞



出典: 資源エネルギー庁「エネルギー白書2012」

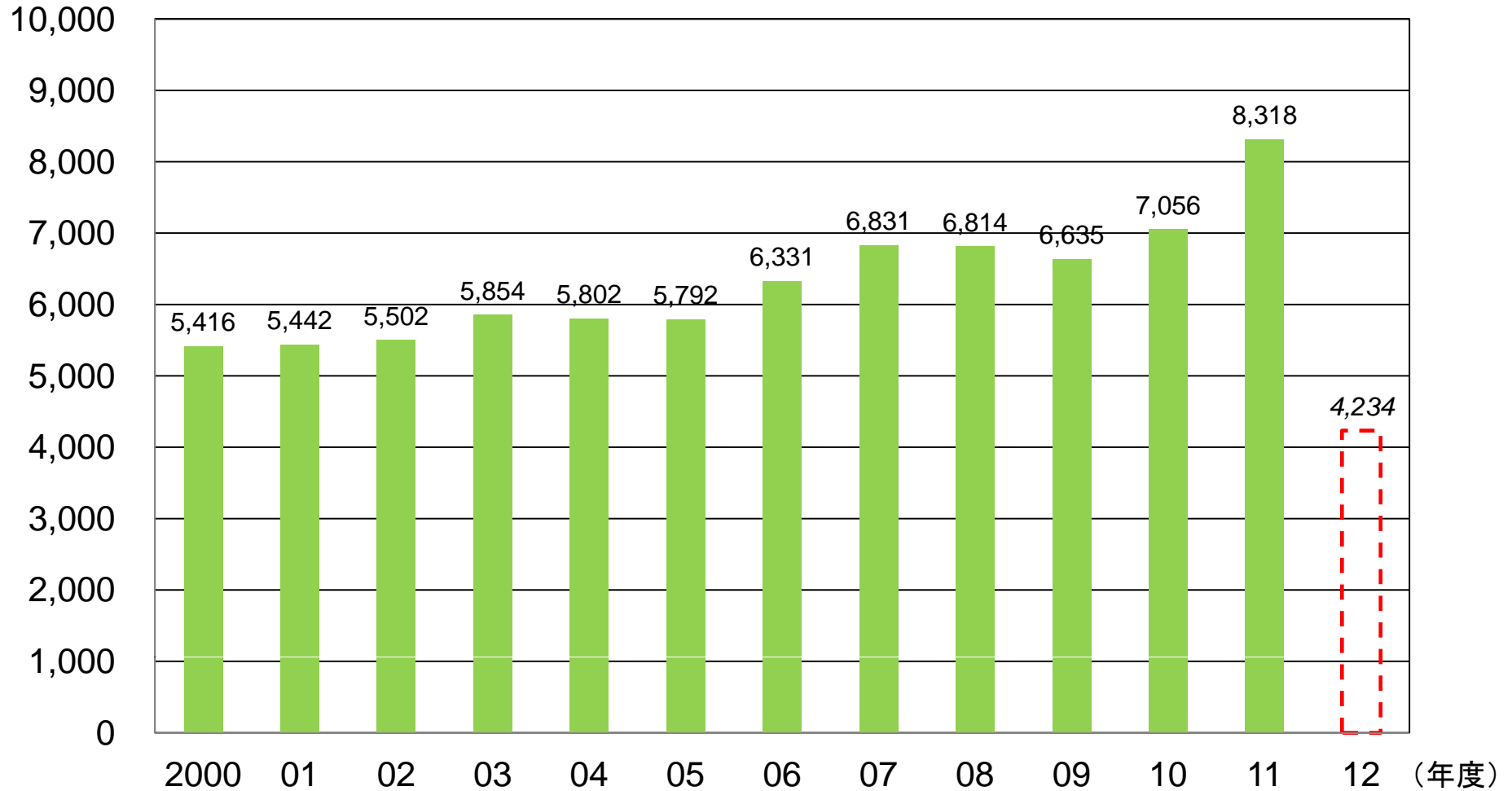
図－3
＜二酸化炭素排出量等の比較＞



出典: IEA「Natural Gas Prospects to 2010」(1986) (資源エネルギー庁「エネルギー白書2012」より)

LNG輸入量の推移

輸入量
(単位:万トン)



※ 2012年度は、上半期(4月~9月)の輸入量

出典:(2011年度まで)資源エネルギー庁「エネルギー白書2012」
(2012年度)財務省貿易統計

確認の視点

確認事項	国としての確認の視点
	基本方針※
臨海部の活性化	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>1 産業の国際競争力と国民生活を支える物流体系の構築</p> <p>(2) 臨海部の産業立地・活動環境の向上 (前略)</p> <p>また、臨海部における国内外からの産業立地や設備投資を促進することにより、我が国における産業の国際競争力を向上させるとともに、雇用や所得の創出等により地域を活性化させることが必要である。</p> <p><u>このため、原材料等のバルク貨物等を輸送する船舶の大型化や企業立地等に対応した港湾施設の整備、臨海部の有効活用・再編による用地の提供を行うとともに、ターミナル隣接地における大型特殊貨物を円滑に輸送するための措置や幹線道路網とのアクセスの確保について関係機関と連携して取り組む。</u></p> <p>(後略)</p>
港湾空間の適正な配置	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理</p> <p>① 地域の活力を支える物流、産業空間の形成</p> <p>港湾は、海上交通と陸上交通の結節点であり、また大規模用地の確保が比較的容易であるという特性を有している。この特性を活かし、地震・津波等の災害に強い効率的で高度な物流空間や<u>国内外からの産業立地や設備投資を促進するための産業空間を形成する。</u></p> <p>(後略)</p>

※港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針(平成23年9月15日施行)